

子ども食堂に役立てて

児童が育てた野菜贈る

荒尾・万田小

荒尾市万田小学校(北岡誉久校長)は、同市万田のみやしま幼稚園(開田耕園長)が実施している子ども食堂に活用してもらおうと20日、同園に児童が育てたタマネギを贈った。今後も年間を通じて、収穫した野菜を同園に寄贈する考え。

同校の特別支援学級「ひまわり学級」では1〜6年生27人が地域住民の力も借りて、野菜の栽培を柱とする。

以前から栽培活動をしてきた自立活動「ひまわりフーム」に取り組んでいたが、2022年度から



開田園長にタマネギを手渡す児童たち

取り組みを本格化。年間計画を立ててさまざまな野菜を育てており、収穫した野菜は今後、地元のマルシエなどでの販売も計画しているが、校区内の同園が3月30日に「みやま子ども食堂」もカフェ「エ」をオープンさせたことから、食材として役立ててほしいと、9日に収穫したタマネギを寄贈した。

この日は同園の卒園生を中心に1年生

3人と5年生6人が来園し、開田園長にタマネギを渡した。5年生の藤本愛珠さん(10)は「頑張ってたタマネギです。おいしく食べてほしい」と笑顔。開田園長は「卒園生も多く通っている小学校。これをきっかけに交流の輪を広げたい」と話していた。

子ども食堂は毎月第2、第4土曜の午後4時半から、持ち帰り形式で行われており、次回は28日に実施の予定。

(河野 美緒)